

開催報告



トキと人の共生を目指した水辺づくり座談会 第9回 天王川自然再生ワーキンググループ

開催日：2016年8月25日(木)18:30~20:40

場所：トキのむら元気館 会議室

参加者：WGメンバー11名、傍聴2名

アドバイザー会議で専門家から示されたご意見を踏まえ、 整備計画について議論を行いました。

7月26日(火)に開催された『第4回トキの野生復帰に向けた川づくりアドバイザー会議』において、座談会を通じて策定した整備計画案に対し専門家から様々なご意見が示されました。

今回のワーキング・グループでは、専門家のご意見を踏まえ、計画をより良くしていくための議論を行いました。

今回は、専門家からご指摘いただいた、上流部における「法面の整備の是非」や「川と湿地のあり方」などについて意見交換しました。

生物多様性の観点や将来の維持管理のあり方まで見据えた議論を行い、今後も継続的に議論していくことになりました。



アドバイザー会議での主なご意見

- 水辺(湿地)を造ることが目的なのに法面に面積を割きすぎている。法面はなるべく小さくして湿地をつくり、石積みで段差をつくった方が管理も楽になる。
- 整備後、自然現象で当初の整備の形がどんどん変わっていく。それを永遠と管理していくのは難しいので、自然の営力による変化を受けれる部分と受け入れない部分を明確にすべきである。
- 上流側は、川の断面や流れる場所を固定せず、自然に任せて自由に動く考え方でも良いのではないか。

意見交換会での主なご質問やご意見

【上流部の法面について】

- 緩やかな法面をやめて、西日本にあるような石積棚田のようにすると草刈りはどうなるのか。
- 農道と湿地の間を二段くらいにすれば多少は管理しやすくなるのではないか。
- 法面部を2段、3段の湿地にして段差を石積にすると人工的な造りになってしまうと思う。
- アドバイザーは法面を湿地にした方が管理が楽だと問題提起されているが、本当にそうなのかもっと議論する必要がある。
- 生物多様性の観点からすれば法面と湿地の組み合わせでも良いが、管理上の効率性やコストについても考慮すべきである。

【上流部の川と湿地のあり方について】

- アドバイザーは自然の営力による変化を受け入れる部分と受け入れない部分を明確にすべきとの意見であるが、ほとんどすべてのエリアで変化を受け入れるべきではないか。

【その他】

- イメージの問題かもしれないが、アーチ型帯工は自然再生する河川に入れることが馴染むのか疑問だ。
- 下流部の試験施工（河道掘削）で加茂湖に濁りなどの影響がでないようにしてほしい。

【今後の予定】

- 新潟大学の本間航介先生をお招きし、ビオトープの整備・管理、自然再生の実践を踏まえたお話をいただき、今回の議論をさらに深めていきます。

天王川自然再生ワーキンググループの構成メンバー

- ◆ 地元集落： 潟上集落、正明寺集落、田野沢集落
- ◆ 関係団体： 佐渡生きもの語り研究所、トキどき応援団、潟上水辺の会、加茂湖漁業協同組合、佐渡島加茂湖水系再生研究所、生樁の自然を守る会
- ◆ 学校関係： 伝統文化と環境福祉の専門学校、佐渡市立行谷小学校
- ◆ 行政機関： 環境省佐渡自然保護官事務所
- ◇ 事務局： 佐渡地域振興局地域整備部、佐渡市役所建設課、佐渡市役所農林水産課

問い合わせ先 新潟県 佐渡地域振興局地域整備部 担当) 計画調整課 水倉、藤澤

TEL : 0259-74-4040 FAX : 0259-74-2048 Email : fujisawa.masamichi@pref.niigata.lg.jp